

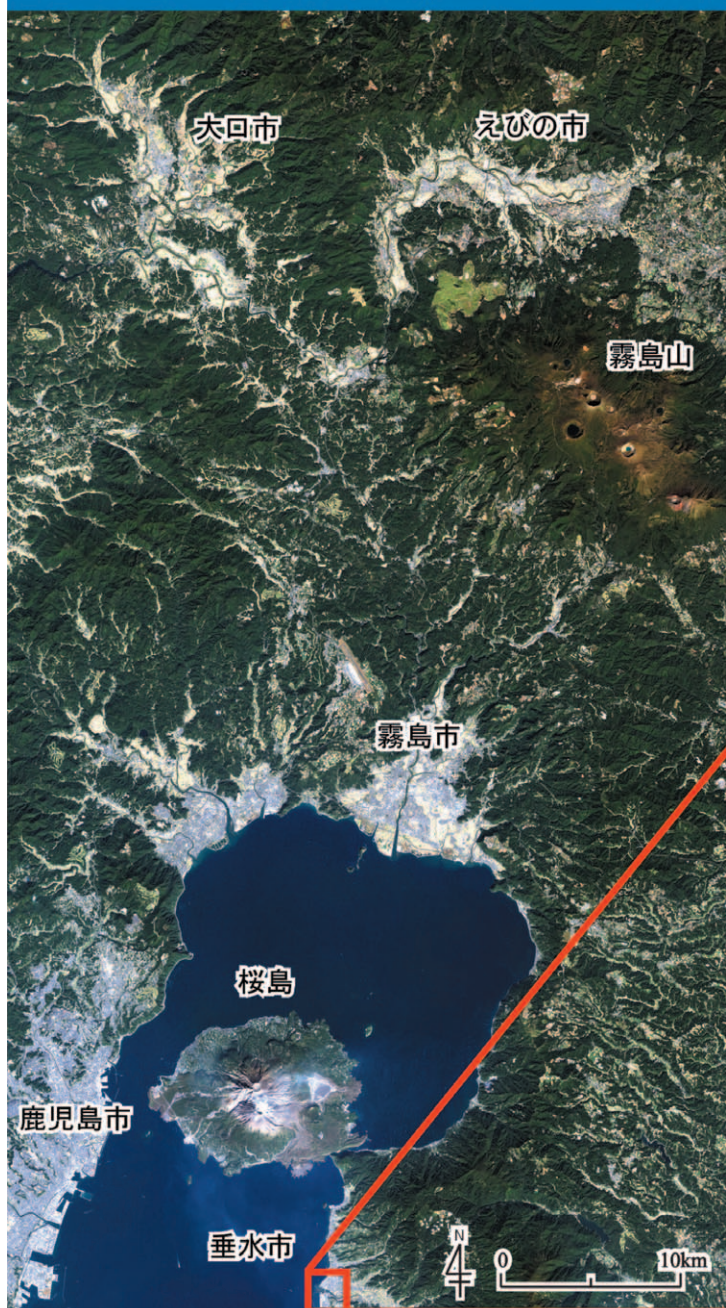
# 陸域観測技術衛星ALOS（だいち）がとらえた鹿児島県桜島周辺（1）

データ提供：財団法人リモート・センシング技術センター

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前号から陸域観測技術衛星ALOS（Advanced Land Observing Satellite）から見た「国土の姿」を紹介しています。下図は、ALOSに搭載された3種類のセンサのうち、パナクロマチック立体視センサ（PRISM：Panchromatic Remote sensing Instrument for Stereo Mapping）、高性能可視近赤外放射計2型（AVNIR-2：Advanced Visible and Near Infrared Radiometer type 2）がとらえた桜島周辺の画像です。PRISMは、前方視、直下視、後方視（対衛星進行方向）といった3方向から観測する画像を同時に取得できるといった特徴があり、得られるステレオ画像から数値地形モデルを生成できます。地上分解能は2.5m/画素（直下視）であり、土地被覆の状況を詳細に判読することができます。AVNIR-2が観測した画像（地上分解能10m/画素）との画質の違いを比較しつつ、さまざまな視点から判読してみてください。

ALOS AVNIR-2 ツールカラー合成画像  
観測日：2006年11月8日



ALOS PRISM 直下視画像  
観測日：2006年11月8日 地上分解能：2.5m



ALOS AVNIR-2 ツールカラー合成画像  
観測日：2006年11月8日 地上分解能：10m



R : Band 3 G : Band 2 B : Band 1

© JAXA Distribution RESTEC